

平成 29 年 6 月 30 日

(公財)日本ハンドボール協会
指導普及本部 育成部
小学生専門委員会 御中

ブロック普及推進会議：北海道ブロック大会視察について

小学生委員会委員長 竹内 貞明
ブロック委員（東北） 今野 大樹

標題に付き、下記の通りご報告申し上げます

記

1. 参加者 小学生専門委員会 委員長 竹内 貞明 ブロック委員（東北）今野 大樹
2. 期 日 平成 29 年 6 月 24 日（土）～25 日（日）
3. 会 場 函館大学
4. 目 的 平成 29 年度北海道ブロック普及推進会議の開催と北海道ブロック大会視察
5. スケジュール 6 月 24 日（土） 9：00～16：00 大会視察及びヒアリング
16：00～17：00 ブロック普及推進会議
6 月 25 日（日） 9：00～14：00 大会視察及びヒアリング

6. ブロック普及推進会議 議事録

- 1) 日 時 6 月 24 日（土）16：00～17：00
- 2) 会 場 函館大学体育館 会議室
- 3) 出席者 15 名（敬称略・順不同）

北海道協会	
釧路支部	中川満則（メーヴェン釧路） 小川敏哉（メーヴェン釧路）
函館支部	波間直美（上磯レラモンキーズ）
	小松浩樹（Motion 函館） 岡本泰治（Motion 函館） 佐々木陵二（Motion 函館）
	鳶澤重勝（Motion 函館） 鎌田武美（Motion 函館） 鎌田加代（Motion 函館）
	寺井晃治（Motion 函館）
	高橋英明（かやげハンド）
佐々木宏（高盛ハンド）	
小学生委員	竹内貞明（委員長） 高橋伸幸（北海道ブロック委員） 今野大樹（東北ブロック委員）

- 4) 資 料 ①平成 29 年度第 1 回小学生専門委員会議事録
②ボール比較検討資料
③眼鏡及びゴーグル使用に関する資料
④いじめ撲滅に関する資料
⑤第 30 回全国小学生大会要項（指導者資格について）

5) 会議内容

開会の言葉 司会者（高橋伸幸：北海道ブロック委員）

1. 小学生委員の自己紹介（竹内・今野）
2. 各支部（各チーム）の自己紹介と現状報告

<p>メーヴェン釧路 ハンドボールクラブ</p>	<p>1年生～6年生までで、男子は20名、女子は10名いる。中学生は男子9名、女子8名の17名と一緒に活動している。週4回の練習ぐらいの練習である。月会費は2,500円。施設利用費だけで50万円かかる。</p>
<p>上磯レモンキーズ ハンドボールクラブ</p>	<p>創設4年目。1年生以上で30名ぐらい所属している。チームの方針で複数所属を認めている。今日は吹奏楽や陸上でいなくて、大会に出場ができなかった。なるべく低料金で活動しようと考えている。（月会費500円）</p>
<p>Motion 函館 ハンドボールクラブ</p>	<p>3年生～6年生までの、男子12名、女子10名の選手と指導スタッフ8名で活動している。週4回の練習は2時間～2時間半行っている。他チームとの練習試合をしながら全国大会を目指している。</p>
<p>かやげハンド ハンドボールクラブ</p>	<p>今までは1つの学校だけで選手が構成されていたが、近隣の学校にも声をかけているところである。練習が親の当番制で行われていたが、保護者の負担軽減のために今年から撤廃した。スタッフを増やしたい。</p>
<p>函館高盛 ハンドボールスクール</p>	<p>1年生から募集をしていて1年生が3人入ってきた。現在、選手全員で31名になった。他のチームの良いところを学ばせてもらっている。</p>

3. 小学生専門委員会より報告 委員長 竹内貞明

4. その他（各チームでの問題点や、日本協会に聞きたいことなど）

Q：新しいボール使用の案だと(男子)4年生は0号球だが、試合に出るときは1号球なのでは？

A：発達段階において4年生は0号球が望ましいが、4年生以上が全国大会に出場する権利があることを考えると1号球の使用になるのかもしれない。現在検討中である。

NTSが今年からU13で行われるがボールをどうするのかという話が出ているが、おそらく男子は2号球でセンタートレーニングをする。

女子は0号球をどんどん使用してほしい。腕を上げて、片手で操作をする選手を育てたい。ボールの開発は進めている段階である。

Q：小さい年代で素晴らしい子供がいても、他競技に行ってしまう。ハンドに来てもらいたいのだが、ハンドボールでは発掘していくものがありますか？

A：小学生では今はない。

日本協会ですでに始めたキャラバンというのがあるので、県協会単位で申し込んでもらいたい。小学生のセンタートレーニングを始めることが発掘につながる部分もあると考えている。

7. 大会視察

大会名……………第 20 回北海道小学生ハンドボール大会

主 催……………北海道ハンドボール協会

主 管……………北海道ハンドボール協会普及部 函館ハンドボール協会

後 援……………(公財)日本ハンドボール協会

参加チーム……男子 4 女子 3

競技場……………40m×20m (1 コート)

試合時間……………10 分－(5 分)－10 分－(5 分)－10 分 混成交流試合は 10 分－(5 分)－10 分

※詳細は大会要項参照

★所感 (竹内貞明)

- ・ 審判の若手育成に積極的に取り組んでいました。ジャッジミスに対して、ベンチや観客席から大きなクレームが出ることもなく、チーム役員も審判育成に積極的に関与していると感じました。
- ・ ラフプレーに対して段階罰が積極的に出されていない様でした。小学生の段階で危険なプレーに対する的確な段階罰の適用は、大きな怪我を防ぐために重要だと思います。
- ・ 北海道で活動している小学生チームで遠距離のため試合に参加できないチームもあり、開催地の検討も課題であると思います。ただ、多くの移動時間が必要な現状は非常に大きな問題であり、この問題解決に向けての課題も多いと思います。
- ・ チームの応援は相手チームや選手を攻撃することなく、子供たち(中学生等)が主導権をとって実施しており、大変気持ちの良いものでした。また、保護者が同じフロアで応援できることもあり、チームとの一体感や家族が近くにいる安心感が子供たちにあるように感じました。
- ・ 女子チーム、部員数の減少もあり、今後はハンドボールをどのようにアピールし競技人口の増につなげていけば良いかは全国的な課題であります。小学生専門委員会としてもこの大きな問題に積極的に取り組んで行く必要性を改めて感じました。

★所感 (今野大樹)

- ・ レフリーと話したところ、小学生に対してどこまで厳しく吹いていいのか迷っているようであった。特に交流試合のレフリーは小学生だからということでオーバーステップやダブルドリブルなどを吹いていないようでした。「小学生だから特別許される」というルールはどこにも明記されていないし、この年代で正しくジャッジしてもらうことが大切なので、「高校生や社会人と同じ基準でジャッジする」という共通理解が必要であると感じました。
- ・ 得点板のところにチーム名の表示がなかったのが気になりました。いつものチームが集まり、保護者たちも慣れているからユニフォームを見ればわかり、困ることはないのかもしれないが、外部から来た私や応援に来た祖父母にとっては、どのチームが試合しているかすぐにはわからないので、プログラムを見る必要がありました。

大会の様子・会場の様子（写真付）



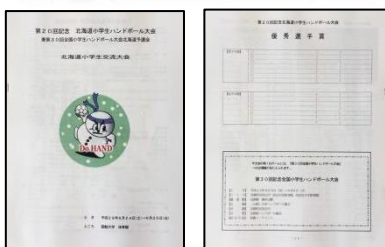
優勝カップ
賞状

優勝チーム名がペナントに書いてあり、20回の大会の重みを感じるカップであった。男女で大きさが違っていた。賞状は3位まで準備してあった。



開会式

整列して、選手宣誓もあり、選手の態度も立派であった第20回大会を記念して全員に大会名の入ったノートが配布された。



プログラム

カラー印刷で各チームの写真入りで、学年、身長、所属校名、チームコメントが明記されている見やすいプログラムであった。選手役員全員の名前にふりがなが振ってあった。裏面には優秀選手賞を記入する欄があった。



大会名の表示

大会の横断幕は、大会回数部分をカッティングシートで貼り換えていました。カラー印刷で、北海道協会のイメージキャラクターの雪だるまも入っているきれいな幕だった。



記録席

チーム役員と兼務であることもあり、ベンチのすぐ後ろに、試合結果を記録できる記録席があった。マイクも用意してあり、放送席も兼ねていた。



オフィシャル
得点掲示

オフィシャルは函館大学ハンドボール部の学生が全て行っていた。オフィシャルの反対側にも連動したデジタイマーと退場者タイマーが置いてあり、ベンチからも見やすくなっていた。



コート全体写真

他競技のラインも多く、見づらいつつもあったが、試合に影響はないようだった。コートサイドに階段状の可動式応援席があり、試合と応援の一体感があつた。



選手紹介の
アナウンス

各チーム1回の選手紹介のアナウンスがあった。背番号順に呼んでいくのだが、全国大会と同様に、チーム役員、TD、審判員の名前も紹介され、選手も喜んでいたり、会場も盛り上がっていた。



カメラマン

各チームや報道関係で写真を撮る際には、「報道」と書かれたビブスを全員着用していた。保護者がゴール後ろで勝手に撮影するようなことが無くルールが守られていた。



ベンチ

木のぬくもりのあるベンチを使用していて、パイプ椅子を使用するよりもコンパクトなベンチになっていた。コミュニケーションも取りやすいようであった。



普及推進会議

竹内委員長による小学生専門員会からの報告に熱心に耳を傾ける様子が見られた。北海道はブロック大会でも、支部大会でもほぼ同じチームが集まることもあるので、温かい雰囲気の中会議は進んでいった。



閉会式

最終試合後、すぐに式の準備がされて閉会式が行われた。成績発表のあと表彰となった。優勝チーム全員にメダルが贈呈されていた。表彰は函館ハンドボール協会会長が行った。



【男子】

優勝：函館高盛HS
2位：メーヴェン釧路
3位：かやげハンド

リーグ戦で行われ、全チームと対戦。得失点差も絡む順位結果になり、拮抗した実力であった。その中で頭一つ抜けていたのがエースを中心とした函館高盛の身体能力の高さであった。



【女子】

優勝：Motion 函館
2位：函館高盛HS
3位：メーヴェン釧路

リーグ戦で行われ、全チームと対戦。6年生を中心とした固いディフェンスが光った。Motion 函館が初優勝を飾った。どのチームも4年生が出場しないと試合が成り立たない人数であった。

平成 29 年 11 月 14 日

(公財)日本ハンドボール協会

指導普及本部 育成部

小学生専門委員会 御中

ブロック普及推進会議：東北ブロック大会視察について

小学生委員会中央委員 石田 真由美

小学生委員会中央委員 長谷川 博之

標題に付き、下記の通りご報告申し上げます

記

1. 参加者 小学生専門委員会 東北ブロック委員 今野 大樹
中央委員 石田 真由美 中央委員 長谷川 博之
2. 期 日 平成 29 年 11 月 4 日 (土) ～5 日 (日)
3. 会 場 新青森県総合運動公園マエダアリーナ
4. 目 的 平成 29 年度東北ブロック普及推進会議の開催と東北地区大会視察
5. スケジュール 11月4日 (土) 8:45 ～ 17:30 大会視察及びヒアリング
14:00 ～ 15:15 ブロック普及推進会議
11月5日 (日) 9:00 ～ 15:30 大会視察及びヒアリング

6. ブロック普及推進会議 議事録

- 1) 日 時 11 月 4 日 (土) 14:00～15:15
- 2) 会 場 マエダアリーナ 会議室
- 3) 出席者 17 名 (敬称略・順不同)

青森県	滝口太 (野辺地リトルガッツ)	四戸祐司 (野辺地リトルガッツ)
	棟方丈博 (青森ハンドボールスポーツ少年団)	前山雄一 (十和田 JHC)
	石井康仁 (十和田 JHC)	野田健治 (青森県協会普及部長: 青森県小学生委員)
秋田県	阿部真 (羽後町ハンドボールスポーツ少年団)	藤井淳 (羽後町ハンドボールスポーツ少年団)
	菅野肇 (秋田県協会理事長)	高橋幸子 (横手ハンドボールスポーツ少年団)
岩手県	小原眞澄 (ヴォルベ滝沢)	柏葉公平 (花巻クラブジュニア: 岩手県小学生委員)
宮城県	岡部徹 (HC黒川)	西野幸子 (HC黒川)
	門間隆之 (大崎ハンドボールスポーツ少年団)	
山形県	高橋洋平 (東根ハンド: 山形県小学生委員)	
福島県	村上隆 (福島県協会)	
小学生委員	今野大樹 (東北ブロック委員) 石田真由美 (中央委員)	長谷川博之 (中央委員)

- 4) 資 料 ① 2017 個人スキル実施についてのご報告
② 2017 指導者数と保有する資格に関する調査

③ J クイック導入の効果について

④ 第 30 回全国小学生ハンドボール記念大会アンケートまとめ

5) 会議内容

開会の言葉 司会者（今野 大樹：東北ブロック委員）

1. 開会の挨拶 日本協会派遣小学生委員 長谷川 博之
2. 小学生専門委員会より報告（中央委員石田 中央委員長谷川）
3. 全国小学生ハンドボール大会について（東北小学生委員 今野）

東北ブロック大会は、第12回を数え、年々参加チームが増えてきている。しっかりとした運営を続けていけば、参加した子どもたちが中高と繋がっていき、それが普及・育成となっていく。全国大会は時間や金銭面等、各クラブとも大変だとは思いますが、参加したチームは、選手の成長を感じているので、ぜひこれからも全国大会への参加をお願いしたい。

4. 各県のチーム毎の自己紹介と現状報告

青森県	昨年度は、12年ぶりに男女とも全国大会に参加できた。県内には3チームあるが、年度ごとに子どもの人数の差が出てきてしまう。今年度は合同チームを作った。大会を企画して、頑張っている子を表彰できた。また、中学校にチームがないクラブは、ユースを創設するなど対応している。企業支援による大会を開く事も出来た。
秋田県	プライベートカップ（横手やきそば杯）を作った。しかしながら、運営側の問題で、参加を見合わせてもらうチームが出てしまった。指導者数の問題は依然ある。全国大会に参加する事で、選手・保護者の意識が変わった。
岩手県	全国大会に参加することで、意識の変化が生まれ、チームの意識が変化し、高まっていった。ただし、金銭的な問題はあある。県内5チームあり、1チーム増えた。どこのチームも人数は増えているが、中学の受け皿がない。
宮城県	中学生になると競技人口が増える。小学生期からの掘り起こしを進めていきたい。今年度は大会を開催する事ができた。市からの補助が減額となり、全国大会に参加はしたいが、難しい面も出てきてしまった。また、NTSの割当て人数が少ないので、参加したいが出来ない
山形県	以前は、参加意思のあるチームが全国大会に参加していたが、今年度は県内に3チームあり、全国大会予選を開催出来た。いまだ中小とも指導者の確保等の問題はああるが、中学生クラブチームの創設などは出来た。女子の人数が少ないのが気になるころではあある。
福島県	予選会を開くなどして、各大会に参加を検討していたが、今年度はインターハイ開催年という事もあり、チーム指導者はインターハイ役員のため、大会出場を見合わせた。協会からの補助を現在検討して頂いている。来年度は全国大会参加予定。

5. その他（各チームでの問題点や、日本協会に聞きたいことなど）

Q：小学生カテゴリーの運営費用ねん出方法について

宮城県：小学生の大会運営等に必要な経費について、どのような補助があるのかお伺いしたい。

長谷川： 県協会行事に係る運営費については、所属する県協会に直接お問い合わせいただきたい。登録費に上乗せして、設定もできる。そのようにして、協会より配分していただく事もできる

Q：全国大会の時期及び場所の変更について

岩手県： 全国大会の時期及び場所の変更についてどのようなお考えか。

長谷川： 全国大会の時期及び場所の変更については、小学生委員会の中でも議論となっている。しかしながら、ブロック大会等の日程の変更も含めて議論していくべきところであり、すぐにでもというわけにはいかないところもある。

石田： 京都としても、人材・費用等精一杯の対応をさせて頂いている。来年度も体育館等を確保していき、より良い環境の中で大会に参加してもらえる様、頑張っていく。

Q：スコアシートについて

青森県： スコアシートについてお聞きしたい。

石田： スコアシートは、複写式のを京都が取り扱っている。直接連絡を取っていただき、必要とあれば、お取り寄せして頂きたい。

7. 大会視察

大会名……………第12回東北ブロック小学生ハンドボール大会

主 催……………東北ハンドボール協会

共 催……………青森県ハンドボール協会

主 管……………青森県ハンドボール協会 青森市ハンドボール協会

後 援……………(公財)日本ハンドボール協会、青森県、(公財)青森県体育協会
青森市教育委員会、青森市ハンドボール協会

参加チーム……男子12 女子12

1日目予選リーグ・2日目決勝トーナメント及び交流戦

競技場……………1日目・2日目とも 40m×20m (2コート)

試合時間……………1日目：8分－(4分)－8分－(4分)－8分

2日目：10分－(5分)－10分－(5分)－10分

※詳細は大会要項参照

★所感 (石田真由美)

- ・立派な、綺麗な体育館で施設が整っている。選手達が伸び伸びとプレーする環境が良いと思いました。ベンチの指示も気になる罵声などまったくなく、試合後も選手の頑張りを褒める場面が多く感じた。ベンチの控え選手もマナーが良く、逆におとなしくも感じた。観覧席は、広い体育館で十分に使い観戦することができる。応援は鳴り物を使いながら保護者、チームメイトが一生懸命応援する姿も微笑ましかった。
- ・東北ブロック大会では、両面テープを使用しているチームが多く見られた。大会側としては、特に制限していないらしい。手の小さい子にとっては片手キャッチが簡単にでき、プレーの幅が少し広がる場面もあった。感覚をつかむ意味では両面テープの使用もありだと改めて感じた。
- ・眼鏡をかけている選手の中には、バンドなしの選手がいたり、ユニホーム下のアンダーの色もチーム間の中でバラバラで統一感がない。パンツ下のスパッツのバラつきも目についた。東北の大きな大会として扱うなら、もう少し統一ルールを設けても良いのではないかと感じた。

★所感（長谷川博之）

- ・ 1日目・2日目共に審判がワッペンをしていない等、ブロック大会としては若干物足りないところを感じました。また、警告・退場の基準が少し甘いように感じた。発掘・育成は、こういったところからも必要だと思うので、ブロックでの小学生専門委員会があり、審判部があるようなら、研鑽を積んで頂きたいと思う。
- ・ 県によっては、競技人口が増加傾向にある県もある。地域の特性上、外での競技が難しいという事が起因かもしれないが、それ以上に各チームの努力もあるかと思う。他地域も見習えるところはあるのではないかと思う。
- ・ 今大会は、各県とも積極的に参加するチームが多かったようだが、参加資格のあるチームが簡単に辞退してしまう事もあるようなので、しっかりとした運営と組織づくりをぜひとも進めて頂きたいと思う。このような状態が、県によってはN T Sの不参加という事に繋がっており、選手の発掘・育成の道を狭くしてしまう。時間や費用の面もあると思うが、各県協会・担当委員が中心となって、ぜひとも良い方向に進んで頂ければと思う。

大会の様子・会場の様子（写真付）



優勝カップ
個人賞メダル

優勝チーム名がペナントに書いてある。2位以下は賞状のみであった。また、個人賞（優秀選手賞）として、メダルが用意されていた。大きいメダルで立派なものであった。



賞状
レプリカ

賞状は1～3位まで表彰される。レプリカは、前年度優勝チームに授与される。しっかりとした重みのある額となっていた。



開会式

整列して、優勝杯返還から始まった。選手宣誓は大きい声で、はきはきとして立派であった。



プログラム

プログラムは白黒だが、第1回からの優秀選手及び所属チーム全員と開催会場及び1～3位チーム名が順を追って記載されている。現在、アンダーカテゴリー選出選手等も載っており、魅力あるものとなっている。



大会名の表示

大会の横断幕は、開催回数とブロック大会名が記載されていた。



記録

大会の記録は随時行われていた。貼り出しの場所は、体育館入口近くとなっており、記録は随時更新されていた。



オフィシャル 得点掲示

オフィシャルは、両日とも青森県内の高校生が担当してくれていた。中央席・モップ待機席とも4名ずつ配置され、電光掲示板の操作にも慣れていて、TDは1日目・2日目とも2名ずつ役員が配置されていた。



コート全体写真

下は白色に近いコート色で、青色のテープで線を引いてあった。とてもきれいに扱われている体育館であった。オフィシャル席後ろに応急処置ができるように係員と用具が揃っていたのは良かった。



普及推進会議

定時に始まった会議は、試合中にもかかわらず、多くの指導者にご参集頂いた。試合間もマイクにてアナウンスして頂けたのも良かった。



閉会式

表彰チームだけでなく、大会参加チーム全てが参加しようとする閉会式は、選手・指導者みんなで作りあげた感じを受け取ることができた。



個人賞授与 男子

個人賞（優秀選手賞）を受賞する選手名が呼ばれると、選手は嬉しそうに立ち上がり、観客席からも拍手が出ていた。青森県理事長が一人ひとりにメダルを渡していた。



個人賞授与 女子

男子と同じく、選手名が呼ばれると選手は嬉しそうに出てきていた。観客席からも拍手が起こり、今大会において、大事なイベントとなっている事が分かる。



【男子】

- 優勝：郡山ハンド
2位：羽後町ハンド
3位：横手ハンド
3位：東根ハンド

物理的高さのある6-0DFの郡山ハンドと高め3-2-1DFで積極的にカットを狙う羽後町ハンドは、効果的なカットインで得点を重ねた郡山ハンドが優勝した。



【女子】

- 優勝：ヴォルペ滝沢
2位：大崎ハンド
3位：羽後町ハンド
3位：古川G.E

初優勝を狙うチーム同士の対決は、岩手県勢女子初優勝となるヴォルペ滝沢のゴールとなった。両チームともに、試合が終わった後の涙は、決して勝敗が目的ではなく、そこに至るまでの研鑽の結果である事がわかった。

(公財)日本ハンドボール協会
指導普及本部 育成部
小学生専門委員会 御中

ブロック普及推進会議：関東ブロック大会視察について

ブロック委員（東海） 外山 征利
中央委員 篠原 すみえ

標題に付き、下記の通りご報告申し上げます

記

1. 参加者 小学生専門委員会 ブロック委員（東海）外山征利 中央委員 篠原すみえ
2. 期 日 平成 29 年 7 月 22 日（土）～23 日（日）
3. 会 場 くまがやドーム
4. 目 的 平成 29 年度関東ブロック普及推進会議の開催と関東ブロック大会視察
5. スケジュール 7 月 22 日（土） 10：00 ～ 17：00 大会視察及びヒアリング
17：00 ～ 18：00 ブロック普及推進会議
7 月 23 日（日） 9：00 ～ 15：00 大会視察及びヒアリング

6. ブロック普及推進会議 議事録

- 1) 日 時 7 月 22 日（土）17：00～18：00
- 2) 会 場 くまがやドーム会議室
- 3) 出席者 27 名（敬称略・順不同）

津覇 仁一(土浦ハンドボールクラブ)	宮内 敏(麻生フェニックス Jr)	新井 俊起(豊里 HC)
関口 和之 (生田 HC ボンバーズ)	高橋 一輝(神奈川県協会)	齋藤 雄紀 (群馬ジュニアハンドボールクラブ)
山口 悠歩 (高崎ジュニアハンドボールクラブ)	齊藤 篤実 (群馬ジュニアハンドボールクラブ)	寺田 和成(川口ハンドボールクラブ)
斉藤 浩幸 (さいたま市ハンドボールクラブ)	半村 茂夫(三郷ハンドボールクラブ)	小野 優(八潮ハンドボールクラブ)
清水 昌一(蓮田クラブ Jr)	福島 聡(春日部ハンドボールクラブ)	松寄 登志子(O.R.Kids Handoball)
菊池 久美子(三郷ハンドボールクラブ)	清田 久雄 (美園 Jr. ハンドボールクラブ)	細井 徳次郎 (FUJISHO HTP-FORIZON Jr)
高橋 鉄(流山ハンドボールクラブ)	祖父江 昭治 (日吉台ハンドボールクラブ)	中村 吉恵(四街道サンダースハンド ボールクラブ)
得居 秀匡(小金井ハンドボールクラブ)	長谷川 博之 (東久留米ハンドボールクラブ)	佐伯 誠二(桜川ハンドボールクラブ)
渡辺 光浩(JHCいしばし)	平塚 秀(JHCいしばし)	吉田 利和 (塩山ハンドボールドスポーツ少年団)

- 4) 資 料 ①ブロック普及推進会議依頼文
②小学生専門委員会名簿

- ③平成 29 年度第 1 回小学生専門委員会議事録
- ④ボール比較検討資料
- ⑤眼鏡及びゴーグル使用に関する資料
- ⑥いじめ撲滅に関する資料
- ⑦第 30 回全国小学生大会要項（指導者資格について）

5) 会議内容

開会の言葉 司会者（宮川 晋：関東ブロック委員）

1. 小学生委員の自己紹介（外山政利 篠原すみえ）
2. 各支部（各チーム）の自己紹介と現状報告

茨城県	男子 10 チーム 女子 9 チーム 新しいチームが増えつつあるが女子のメンバーが少ない為に活動が出来ないチームある、今後女子のメンバー集めが課題。
栃木県	男子 8 チーム 女子 4 チームと現状維持の活動となっている。
群馬県	男子 7 チーム 女子 3 チーム 新チームが加入に来年度は 4 チームになる。
神奈川県	男子 7 チーム 女子 3 チーム 4 チームは男女混交で練習している。選抜大会出場で指導者間の連携が課題となっている。これから強化体制を整え活動をしていきたい。
山梨県	男子 3 チーム 女子 3 チーム 110 名登録されている。 中学校に上がってもハンドを続けられるように中学校でチームを作っていただき活動している。
埼玉県	男子 9 チーム 女子 7 チーム 関東大会の日程調整が難しいので今後の開催時期の検討が必要

3. 小学生専門委員会より報告 外山 征利、篠原 すみえ

4. その他（各チームでの問題点や、日本協会に聞きたいことなど）

Q：全国大会が今回トーナメントになっているがブロック内同士が対戦しないように配慮して抽選を検討していただけないですか？

A：今回、30回記念大会で抽選を公開しトーナメントにしています。
皆さんの意見を持ち帰り大会後に検討していきます。

Q：O号球を取り入れチームに浸透してきているが協会の取り組みとして今後、ボール変更の実現の可能性がありますか？

中学校の部活で違うボールを使い1年生と2,3年生と一緒に練習する事が難しい。
ボールを全チームで導入していく事が難しいのではないか。
正式導入するのであれば今後の見解が見える形に欲しい。

A：中学生の女子は海外では1号球を使用しているところもあり、これを参考に今後、小学生や中学生のボールについて検討していきます。
また、松ヤニや両面テープ使用しないでボールを保持出来る様に開発を進めていただき導入を検討しています。

Q：ゴールポストのサイズ変更についてはどのようになっていきますか？

A：ヨーロッパでは板を貼ってサイズを変更して実施している。
日本では中国地方の岩国で実施したが簡単に変更し使用する事が出来ないことと長身のキーパーにとっては板が頭に当たる可能性もあり、更に技術検討会で導入方法を検討して方向性を決めていきます。

Q：コート長さですが現在36mとなっている為40mのコートを変更してマスキングテープで消して、両方のコートを縮めて作成しているので40mのコートで試合をしてもいいのではないか、固定ネジが使用出来ないので安全確保の為にも検討してほしいです。

A：競技規則に記載してあるので36m～40m以内の範囲で使用出来る様に検討が必要になっていると思いますので今後検討していきます。

Q：NTSの実施内容について中学校側が選考についての連絡が伝わっていない情報を末端まで届くように、中体連との連携が取れるようにしていただきたい。

A：今後、中体連との連携が大事になっていきますので、情報がしっかり周知できるようにしていきます。

7. 大会視察

大会名……………第33回東海少年少女ハンドボール大会

主 催……………関東ハンドボール協会

主 管……………埼玉県ハンドボール協会

後 援……………(公財)日本ハンドボール協会

参加チーム……男子10 女子10

競技場……………40m×20m (1コート)

試合時間……………10分-(5分)-10分-(5分)-10分

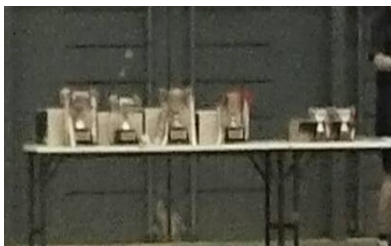
※詳細は大会要項参照

★所感 (外山征利)

★所感（篠原 すみえ）

- ・ 関東ブロック大会は全国大会直前の大会ということで緊張感のある大会でした。
準決勝からの試合は一進一退の試合内容で目が離せない試合となりました。
その中、審判員の大半がB級以上の方が笛を吹いていてしっかりジャッジされていました。
- ・ 表彰では優勝、準優勝と1.2回戦で敗退したチームでトーナメント戦があり協会長杯の授与があり選手にとって最後までモチベーションを高く持てる大会だと感じました。
- ・ この大会は両面テープの使用を認めている大会で女子の選手はボールを保持しシュートまで持ち込めるシーンが多く見られパスがうまく回っていました。
高学年はボールを保持出来る様になると両面テープを巻かずプレイする子供達もいる様です。
指導者の方の中には両面を巻くことで技術的にも向上するとの意見もありボール保持してプレイ出来る様にする為のトレーニング方法やボールサイズの検討を進める事が大事だと思いました。

大会の様子・会場の様子（写真付）



優勝カップ 賞状

男女優勝チームには優勝カップ
3位までの入賞チームにはチーム表彰
及び個人賞。
1.2回戦敗退チームトーナメント優勝
チームに優勝カップが準備されていた。



開会式

各県の男子10チーム
女子10チームが参加し
しっかり姿勢を正し緊張
感のある開会式でした。



プログラム

各チームの写真入りで、学年、身長、所属校
名が記載されていた。栄光の記録が記載さ
れていて第32回大会までの歴代の優勝、
準優勝チーム名が記載されていて歴史の重
みを感じた。



大会名の表示

大会の横断膜は体育館中央に大きく表示さ
れインパクトがあり迫力のある膜でした。



オフィシャル

オフィシャルは関東協会役員が努め
TDは埼玉県協会役員 補助員は高校生で
行われていた。



コート全体

40m のコートが 2 面とれていて中央部分は
アップが出来る様に 4ヶ所に区切られていた。
応援席も十分確保され、保護者の温かい
声援が選手に届いていた。



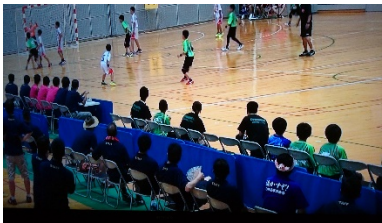
補助員

試合中コートサイドでモップ拭きの補助員
が 3 人いて試合中に床が濡れても即対応さ
れていた。



ベンチ

パイプ椅子が使用されゆったりとスペース
が取られていた。



普及推進会議

関東ブロック員の宮川さんの進行で始まり
各地区及びチームの現状報告では悩みや今
後の課題について代表者から報告。
小学生専門員会からの報告の後には意見交
換が弾み、時間ぎりぎりまで行われた。



閉会式

最終試合後、すぐに式の準備がされて閉会
式が行われた。成績発表のあと表彰となっ
た。優勝チームには日本ハンドボール杯、
関東ハンドボール杯が授与され 1.2 回戦敗
退チーム同士で行うトーナメントの優勝チ
ームに県協会長杯が授与された。





【男子】
優勝：小金井 HBC
2位：川口 HBC
3位：三郷 HBC
**3位：山梨市ハンド
 ボールスポーツ少年
 団**

トーナメント戦で行われた決勝まで4試合
 10分・5分・10分・5分・10分で試合が行
 われた。決勝戦小金井 HBC が最初リードし
 た展開の中、川口 HBC が粘りを見せ1点差
 を争うゲーム展開となりましたが。エース
 を中心とした攻撃力で小金井 HBC が優勝
 した。



【女子】
優勝：三郷 HBC
2位：東久留 HC
**3位：群馬ジュニア
 HBC**
**3位：麻生フェニッ
 クス Jr.**

トーナメント戦で行われた決勝まで4試合
 10分・5分・10分・5分・10分で試合が行
 われた。決勝戦は東久留米の高い DF から
 速攻で点を狙っていく攻撃に対し三郷
 HBC は0・6DFでコンビネーションで点を
 とり前半戦のリードを保ちエースを中心に
 1点差ゲームを勝利し優勝した。

(公財)日本ハンドボール協会
指導普及本部 育成部
小学生専門委員会 御中

ブロック普及推進会議：東海ブロック大会視察について

ブロック委員（近畿） 尾崎 耕平

ブロック委員（北信越）谷口聡一郎

標題に付き、下記の通りご報告申し上げます

記

1. 参加者 小学生専門委員会 東海ブロック 外山 征利
近畿ブロック 尾崎 耕平 北信越ブロック谷口 聡一郎
2. 期 日 平成 29 年 10 月 28 日（土）～29 日（日）
3. 会 場 岐阜メモリアルセンター ふれ愛ドーム
4. 目 的 平成 29 年度東海ブロック普及推進会議の開催と東海ブロック大会視察
5. スケジュール 10 月 28 日（土） 9：00～16：30 大会視察及びヒアリング
17：00～18：00 ブロック普及推進会議
10 月 29 日（日） 9：20～15：50 大会視察及びヒアリング

6. ブロック普及推進会議 議事録

- 1) 日 時 10 月 28 日（土）17：00～18：00
- 2) 会 場 岐阜メモリアルセンター ふれ愛ドーム 会議室
- 3) 出席者 32 名（敬称略・順不同）

三重県	大橋 稔（笹川 HBC） 水谷 崇史（元気アップこもの）	中村 俊輔（亀山 HBS） 伊藤 伸弘（亀山 HBS）	吉原 恒（ヴィアティン三重） 小林 英志（ヴィアティン三重）
愛知県	濱野 健一（東海 HBS） 森本 健哉（東海 HBS） 山田 祐輔（愛知県協会）	大森 真二（尾北 HBS） 沖野 頌悟（尾北 HBS） 桂 太樹（尾北 HBS）	熊崎 俊幸（平針南 HBC） 吉田 貴之（HC 名古屋） 杉田 功（半田市 HBS）
岐阜県	五島 建児（岐阜 MHC） 岸野 巧（岐阜 MHC） 各務 秀昭（大垣市 HB 少）	小瀬 隆（高山ミニ HBC） 駒谷 郁乃（高山ミニ HBC） 米山 裕司（キャロット Jr）	杉森 弘幸（岐阜県協会） 井上 和香奈（岐阜県協会） 馬場 伸也（キャロット Jr）
静岡県	西室 康二（御殿場 HBC） 持麿 俊英（御殿場 HBC）	中川 和仁（御殿場 HBC） 芹沢 徹（御殿場 HBC）	大澤 泰介（静岡県協会）
小学生委員	外山 征利（東海委員）	尾崎 耕平（近畿委員）	谷口 聡一郎（北信越委員）

- 4) 資 料 ①ブロック普及推進会議依頼文
②小学生専門委員会名簿
③平成 29 年度第 1 回小学生専門委員会議事録
④ボール比較検討資料

- ⑤眼鏡及びゴーグル使用に関する資料
- ⑥いじめ撲滅に関する資料
- ⑦第 30 回全国小学生大会要項（指導者資格について）

5) 会議内容

開会の言葉 司会者（外山征利：東海ブロック委員）

1. 小学生委員の自己紹介（尾崎耕平・谷口聡一郎）
2. 各府県（各チーム）の自己紹介と現状報告

三重県	8 チーム（登録外 2 チーム含む）が活動している。指導者・審判の育成のため、各種講習会を実施し資格取得を推進している。また、日本リーグの三重バイオレットアイリスと上手くタイアップして普及推進できないかと、現在模索中である。
愛知県	小学生のクラブチームは増加傾向にあるが、各チーム女子部員の人数が減っているのが課題。J 級指導員の講習会を毎年開催し、指導者育成に力をいれている。また、県内小学生指導者での組織作りを進めている。
岐阜県	男子 8 チーム（登録外 2 チーム含む）、女子 7 チームが活動している。チーム数は増減なしで毎年現状維持を保っている。各種、資格取得の流れから、今年 6 月に J 級講習会を実施した。審判資格の取得は進んでいるが講習会等の開催を検討・実施していきたい。
静岡県	1 チーム(男女)が登録して活動し、登録外で 3 チームが活動している。中学校にクラブがなく、クラブチームが 1 チームあるだけで、中学校での受け皿が少ない。中学校への接続が大きな課題である。

3. 小学生専門員会より報告 近畿ブロック 尾崎 耕平・北信越ブロック 谷口 聡一郎
4. その他（各チームの問題点や、日本協会に聞きたいことなど）

Q：ボールサイズについて

- ・空気圧の加減で、1 号球ではボールが大きくなるので、女子のボールサイズは、0 号球の方が良い。
- ・女子は人数が減ってきて 4 年生から試合に出さないといけなくなっていることを考えると、0 号球の方が良い。
- ・人数が少ないチームは男女で練習をする。女子が 0 号球になると練習をする際、ボールの入れ替え等をしないといけないので、練習するのが難しい。現行のままが良い。

Q：J クイックについて

- ・J クイック導入により、中学校からドリブルが多くなった、ゼロストップができなく

なったといった指摘が出ている。中学校の指導者との情報共有や共通理解が必要である。

- ・Jクイック導入に伴い、ハンドボールの醍醐味である、上からロングシュートを狙うという意識が低下したように思う。
- ・ロングシュートが減ったというイメージはるが、メリット・デメリットがあるので、指導者がJクイックの趣旨を理解して指導していくことが大切だと思っている。
ルールとして捉えるのか、方針・指導方法として捉えるのかという面でそれぞれ認識が違う部分がある。3年間でよし悪しを判断するのは難しいので、この3年間でJクイックを経験した子どもたちが中・高とあがるにつれてどうなっているのかを見てからでも遅くはないかなと思う。
- ・女子の始めたばかりの子どもたちが、マンツーマンDFによりパスすら出させてもらえない現状があり、プレーさせてもらえずおもしろくないと思ってしまう。
普及という観点から見ると、有効ではないように思う。
- ・オープンDFのルール化・義務化は難しいと思う。戦術として考えるのであれば、6：0ディフェンスが悪いわけではないので、中学生の指導者からも意見を聞きながら、今後考えていく必要がある。

Q：NTS センタートレーニングについて

- ・東海 HBS の濱野さん（NTS 技術指導委員会内容策定委員技術指導ディレクター）から趣旨と概要の説明があった。
- ・小中の枠を取り払って、U-13、U-16 のカテゴリで実施する。
- ・センタートレーニングが平成 30 年 1 月 6、7、8 日に開催される。

7. 大会視察

大会名……………第 34 回東海地区少年少女ハンドボール大会

主 催……………東海ハンドボール協会

主 管……………岐阜県ハンドボール協会

後 援……………(公財)日本ハンドボール協会

参加チーム……男子 12 女子 12

競技場……………36m×20m（2コート）

試合時間……………予選リーグ 10 分－（5 分）－10 分

決勝トーナメント 10 分－（5 分）－10 分－（5 分）－10 分

交流戦トーナメント 8 分－（3 分）－8 分

※詳細は大会要項参照

★所感 (尾崎 耕平)

- ・交流戦も勝ち上がり方式をとっていたので、1日目に負けたチームも、2日目勝ち上がることを目標に、熱心に試合に取り組んでいたのがよかった。
- ・試合進行もスムーズにされており、ベンチ・観客の応援マナーも大変良かったように思う。
- ・岐阜県協会の方々は、少ない人数で、試合進行・審判・オフィシャル等、協力して大会運営されていた。毎年、各県持ち回りで開催されるので、大会運営のノウハウを知っている方がたくさんいる県はスムーズな大会運営が行われているが、今回のように、スタッフが少ない場合は、主催者側は、苦勞して運営されている現状があった。
- ・オフィシャルを保護者がしていたこともあり、審判員との意思疎通が上手くいかない場面が何度かあった。
- ・2日間、各県各チームの指導者の方、岐阜県協会の方々と交流ができ、色々な話を聞くことができ、有意義な時間となった。岐阜県協会の方々、大会役員、ならびに関係者の方々、2日間ありがとうございました。

★所感 (谷口 聡一郎)

- ・昨年までの参加チームによる帯同審判から、今年度より各県からの派遣審判になったと聞いた。ブロック大会をより良くしようとの取り組みが素晴らしいと感じた。各チームのスタッフは自チームに専念できたのでは。また、派遣された各県の審判員の方々はレベルが高く、大会審判長のもとまとまりがあり正しいジャッジがされていた。
- ・予選リーグから予選1位チームによる決勝トーナメント、予選2・3位は交流トーナメントであったが、2・3位もトーナメント方式となっており、勝負に対するこだわりや盛り上がり最後まであった。
- ・決勝トーナメントの試合順やオフィシャルの運営、試合をしているチームのチーム名カードや各セットの表示カードがなかった等、改善されればさらに大会が良くなるような点もいくつかあった。
- ・男女共に多くのチームがオープンDFを採用しており、スピーディーな展開の試合が多くあった。オープンDFの完成度が高いと感じたとともにJクイックへの理解度が高く、浸透していると感じた。

大会の様子・会場の様子 (写真付)



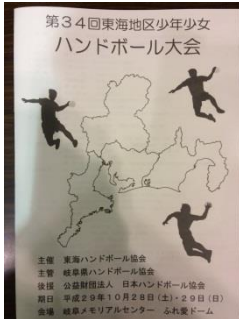
優勝カップ
賞状

男女1位はカップと賞状、2位・3位は賞状が準備されていた。



開会式

各チーム速やかに整列し、式が始まった。協会役員及び大会参加指導者も列席し、厳粛な雰囲気の中、式が行われた。



プログラム

要項・日程・名簿が記載されており、シンプルで見やすいものであった。



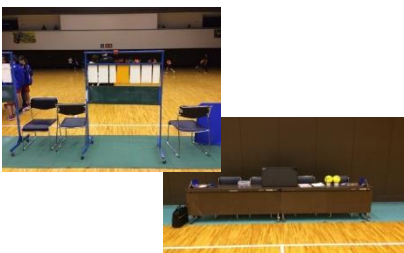
代表者会議

大会主催者から注意事項と、審判長から選手登録変更や競技についての説明があった。



記録

大会の記録は随時行われていた。メインフロアとアップ会場の上に1つ、観客席のほうにも1つ貼り出され、選手・観客からも見やすい配慮がなされていた。



オフィシャル 得点掲示

1日目のオフィシャル・得点掲示は前試合の負けチームが行っていた。保護者がしていることが多くみられた。



コート全体写真

36m×20mのコートが2面並んだ状態であったが、笛の音色によるトラブルもなく、スムーズに試合が進行されていた。



アップ会場

メインコートのすぐ近くにあり、ボール使用は不可であったが、2～3チームはアップできる広さがあった。



試合風景

予選リーグ、決勝トーナメントは派遣審判をメインにゲームが進められていた。交流戦は、それぞれのチームの指導者を中心に進められていた。



ベンチ

選手が座るベンチ付近は、スペースが確保されており、試合に影響がないように配慮されていた。スペース確保のため、長椅子が使用されていた。



普及推進会議

4県からたくさんの指導者の方に出席いただき、会議が進められた。Jクイック導入後の様子や各県、各チームの実態等が交流され有意義な会議となった。



閉会式

最終試合後、台風の影響で警報も出ていたこともあり、すぐに式の準備がされて閉会式が行われた。岐阜県協会理事長から、1位チームにはカップと賞状、2位・3位チームには賞状が手渡された。



【男子】

- 優勝：笹川 HBC
- 2位：岐阜 MHC
- 3位：正色スポ少年団
- 4位：高山ミニ HBC

両チーム堅い守りと速攻で、一進一退の試合展開が続く決勝戦だった。キーパーの好守もあり、笹川 HBC が優勝を飾った。(三重県勢 15年ぶりの優勝)



【女子】

- 優勝：東海 HBS
- 2位：ヴィアティン三重
- 3位：平針南 HBC
- 4位：キャロット Jr

両チームともエースの活躍で、シーズンゲームが続く試合展開であった。最後まで集中力を切らさずにシュートを決め切った東海 HBC が勝利し、優勝を飾った。

(公財)日本ハンドボール協会

指導普及本部 育成部

小学生専門委員会 御中

ブロック普及推進会議：北信越ブロック大会視察について

小学生委員会中央委員 山田 祐輔

小学生委員会中央委員 長谷川 博之

標題に付き、下記の通りご報告申し上げます

記

1. 参加者 小学生専門委員会 北信越ブロック 谷口 聡一郎
中央委員 山田 祐輔 中央委員 長谷川 博之
2. 期 日 平成 29 年 10 月 7 日 (土) ～8 日 (日)
3. 会 場 富山県氷見市ふれあいスポーツセンター、氷見高校 (交流会会場)
4. 目 的 平成 29 年度北信越ブロック普及推進会議の開催と北信越地区大会視察
5. スケジュール 10 月 7 日 (土) 9 : 30 ～ 17 : 30 大会視察及びヒアリング
17 : 30 ～ 18 : 30 ブロック普及推進会議
10 月 8 日 (日) 9 : 30 ～ 15 : 30 大会視察及びヒアリング
6. ブロック普及推進会議 議事録
- 1) 日 時 10 月 7 日 (土) 17 : 30～18 : 30
- 2) 会 場 ふれあいスポーツセンター 会議室
- 3) 出席者 14 名 (敬称略・順不同)

氷見市協会	瀬戸茂 (氷見市ハンドボール協会理事長)	
富山県	堀川健志 (氷見ハンドボール Jr.)	新井龍雄 (窪スポ少ハンド部)
	西田豊 (上庄ハンドボールクラブ)	
福井県	田中秀昭 (北電 Jr. ブルーロケッツ)	鍛原博和 (北電 Jr. ブルーロケッツ)
	竹内武 (光陽 Jr.)	
石川県	井上誠一 (能美ジュニア HC)	荒井達也 (能美ジュニア HC)
新潟県	北村孝 (柏崎ジュニア)	
長野県	服部博幸 (埴生小学校)	
小学生委員	谷口聡一郎 (北信越ブロック)	山田祐輔 (中央委員) 長谷川博之 (中央委員)

- 4) 資 料 ①平成 29 年度小学生専門委員会名簿
②ボール比較検討資料
③眼鏡及びゴーグル使用に関する資料
④いじめ撲滅に関する資料

⑤第30回全国小学生大会要項（指導者資格について）

⑥2017年小学生指導者資格取得調査資料

5) 会議内容

開会の言葉 司会者（谷口 聡一郎：北信越ブロック委員）

1. 開会の挨拶 氷見市ハンドボール協会理事長 瀬戸 茂 様
2. 小学生委員の自己紹介（山田 祐輔・長谷川 博之）
3. 各県のチーム毎の自己紹介と現状報告

氷見 ハンドボール Jr. (富山県)	部員数だけでなく、指導者の確保も課題であり、保護者を巻き込んだの活動をしている。他チームで活動が難しい時の引き受け先となっている。富山県としては、アランマーレが小学生のチームを始めたが、全体としては、チーム数は減少となっている。
窪スポ少ハンド部 (富山県)	各学年で数名ずつで高学年1チームを形成している状態。男女で活動している。コーチは男女別となっている。毎年部員の確保が課題となっている。保護者の協力を得て運営をするようにしている。富山県で開催されているJクラス（低学年大会）では、協力だけでなくコートサイドからの応援も出来る様にしている。
上庄 ハンドボールクラブ (富山県)	単体での小学校チームとして活動してきている。子供の数の減少に対して、資料にあるボールサイズ変更は、ボールを持ってない子でも親しみがわくと思うので、子供たちが取り組みやすくなると思う。
北電 Jr. ブルーロケッツ (福井県)	子供の絶対数が減少していることを受け、月1回の体験会を開くようにしている。現状は、高学年の各学年に数名ずつしかいない。
光陽ジュニア ハンドボールクラブ (福井県)	クラブとして、左利きの発掘・育成を大事にしている。県内では、トップレベルのチームがあり、研鑽する事ができ助かっている。
能美ジュニア ハンドボールクラブ (石川県)	県内は男子に新しいチームが出来たので3チーム・女子2チームでの活動となっている。また、金沢で教室として1チーム活動している。チームとしては、部員の確保が男女ともに課題となっている。
柿崎ジュニア ハンドボールクラブ (新潟県)	現在、県内では1チームだが、ドッチボール団体をハンドボールチームに変更しているところがある。また、長岡で1チーム出来るかもしれない。年長さんから誘うなどして努力は続けていく。
埴生小学校 (長野県)	小学校単位での課外活動として行っている。他、上田に1チーム広域を対象として、男子のみだが活動している。教室としては3チームある。千曲では、今年度から低学年からを対象に50名ほどの教室を開いている。教室は、掛け持ちで同一の指導者が行っている関係上、試合期になると開催しにくくなっている。

3. 小学生専門委員会より報告 中央委員 山田祐輔・中央委員 長谷川博之

4. その他（各チームでの問題点や、日本協会に聞きたいことなど）

Q：Jクイックについて

氷見 Jr.： Jクイックの見直し等、検討頂けるのか？

長谷川： 具体的には、どのような部分でしょうか。

氷見 Jr.： 3セットの意義が分かりにくいので2セットが良い。また、子供たちに話すためのタイムアウトなら、1回は少ない。せめて、2回が良いのではないのでしょうか。

窪スポ少：センターラインからのスタートはどうか。センターラインからのスタートにする事で考える時間ができる。

北電 Jr.： Jクイックにする事で、ハンドボールの醍醐味であるスピードをみんなが味わえていると思う。この様式は良いと思う。

埴生： スピード化に合わせた審判の育成についても必要であると思う。

山田： 愛知県ではYRP（ヤング・レフェリー・プロジェクト）というものを開催している。主に中高生が参加しており、積極的に大会や試合に参加できるよう審判委員会でサポートをしている。この際、カテゴリーからいって小学生大会が吹きやすいことから声を掛けている。このような環境を整えることも是非お願いできればと思う。

7. 大会視察

大会名……………ちびっこハンドボールフェスティバル2017

主催……………富山県ハンドボール協会

主管……………氷見市ハンドボール協会 富山県小学生ハンドボール専門部

後援……………北信越ハンドボール協会、氷見市教育委員会、(公財)氷見市体育協会
氷見市スポーツ少年団、株式会社スポーツイベント

参加チーム……トーナメント 男子15 女子16

交流戦 男子8 女子7

競技場……………トーナメント 40m×20m (3コート、2日目は1コート)

交流戦 氷見高校第一・第二体育館 (2コート)

ふれあいスポーツセンターメインアリーナ2面 (2日目のみ)

(2日目はふれあいスポーツセンターを含め4コート)

試合時間……………10分-(5分)-10分-(5分)-10分 交流戦は1日目15分、2日目12分

※詳細は大会要項参照

★所感 (山田祐輔)

- ・春の全国中学生大会が行われる立派な体育館で盛大に開催された。多くの保護者の方々が熱心に応援しており、この大会の重要性が伝わってきた。また、ベンチ役員の方のマナーも大変良く、好感を持つことができた。
- ・レフェリーは富山県内から派遣されており、Jクイックも問題なく運用できていた。ただ、段階罰の適用が曖昧な部分もあり、DFの評価も含め、精査が必要であると感じた。
- ・今日本協会では、後半は基本イエローカードなしという考えのもと進めている。この考えは各カテゴリーで研修を積み、運用している。この点からも小学生大会では、3セット目に該当すると思われる。1日目は3セット目終盤にイエローカードが提示されている場面も見られたので、2日

目は3セット目基本退場で進めてほしいをお願いをさせていただいた。しかしながら本大会にふさわしい振る舞い、ジャッジが多く見られたことは、大変有意義だった。

★所感（長谷川博之）

- ・1日目・2日目と計5面で開催されるハンドボール大会（交流戦含む）は全国を見ても例がないくらいの大規模大会です。しかしながら、潤滑に繰り広げられていく運営力は、さすがハンドボールの町です。代表者会議・開会式から第1試合までが素晴らしく流れていきました。後から知りましたが、準備から閉会後の片づけまで、大会役職の方もチームの保護者も皆さんが意識的に参加されているとの事で、氷見市ではハンドボールが文化に近いものであるとも感じました。
- ・指導者不足・高齢化が深刻な問題となっているようですが、1年でそのようになる事はないと思いますので、積極的に資格・技能講習をするなど、若年層が指導に参加しやすい環境づくりは出来るのではないかと思います。
- ・2日目の準決勝会場にて、応援席が通常のイスとなっていました。以前は移動式の観戦席でしたが、やはり臨場感も含めて、再度検討して頂けるとありがたいです。

大会の様子・会場の様子（写真付）



優勝カップ

優勝チーム名がペナントに書いてあり、2位以下のチームにも賞状・カップが用意されていた。また、優秀選手・最優秀選手用のトロフィーも用意されていた。



開会式

整列して、優勝杯返還から始まった。協会役員及び大会参加指導者も列席し、その中での選手宣誓は立派であった。



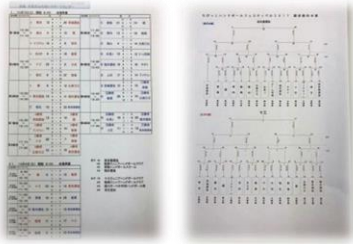
プログラム

表紙・裏表紙はカラー印刷で前年度の選手が写ってる。各チームの写真入りで、学年、チームコメントが明記されている。交流戦参加チームもトーナメント参加チーム同様にプログラムに入っているの、かなりのボリュームとなっており、見ごたえのあるプログラムとなっている。



大会名の表示

大会の横断幕は、回数を載せているのではなく、開催年度を載せてあった。



記録

大会の記録は随時行われていた。貼り出しの場所は、体育館の一番大きな柱となっており、見やすい場所となっている。また、大会の最終結果も速やかに行なわれていた



オフィシャル 得点掲示

オフィシャルは大会役員・各チーム責任者といった方々が管理されていた。オフィシャルの反対側にも連動したデジタイマーと退場者タイマーが置いてあり、ベンチからも見やすくなっていた。



コート全体写真

今大会にて、コートは全て白色で非常に見やすいとともに、主たる色がどこに行っても白色である事に驚いた。決勝が行われたサブコートは観客で囲まれ、かなり盛り上がっていた。



交流戦会場

交流戦会場は、氷見高校の体育館を使用していた。コートは明るく、真ん中に得点板（めくり式）を置いて分かりやすくなっていた。責任者の管理のもとしっかりとした運営がなされていた。



選手紹介の アナウンス

決勝戦は、選手紹介のアナウンスから始まった。背番号順に呼んでいくのだが、全国大会と同様に、チーム役員、TD、審判員の名前も紹介され、選手も喜んでいました。



普及推進会議

北信越地域の指導者の皆さんのハンドボールを盛り上げていきたい気持ちと現行の様式に対する理解の深さに驚いた。1時間程度の会議となったが、最後は時間が足りないくらいであった。



閉会式

最終試合後、すぐに式の準備がされて閉会式が行われた。成績発表のあと表彰となった。男女3名ずつ1位から3位までカップ・賞状・景品が授与された。表彰は氷見市ハンドボール協会会長が行った。



閉会式 個人賞授与

閉会式にて、順位表彰が行われた後、個人賞の授与があった。優秀選手及び最優秀選手が発表され、一人一人にカップが授与されていた。



【男子】

優勝：東京選抜
2位：能美ジュニア
3位：福井選抜
3位：東海ハンド

圧倒的な個人能力で勝ち上がってきた東京選抜と素晴らしいGKとスピード速攻を身上とする能美ジュニアとの決勝戦は、初優勝をかけた対戦となり、お互い力を出そうと気持ちあふれる試合であった。



【女子】

優勝：十三ジュニア
2位：能美ジュニア
3位：窪スポ少
3位：東京選抜

全国大会の女王である十三ジュニアと素晴らしいGKからのスピードハンドを展開する能美ジュニアとの決勝戦が行われた。Jクイックへの理解とそれを体現しようと研さんを重ねてきたことが分かる試合であった。

平成 29 年 8 月 15 日

(公財)日本ハンドボール協会

指導普及本部 育成部

小学生専門委員会 御中

ブロック普及推進会議：近畿ブロック大会視察について

ブロック委員（九州） 古谷 裕邦

ブロック委員（北信越） 谷口聡一郎

標題に付き、下記の通りご報告申し上げます

記

1. 参加者 小学生専門委員会 委員（九州）古谷 裕邦 委員（北信越）谷口 聡一郎
2. 期 日 平成 29 年 8 月 13 日（日）
3. 会 場 滋賀県立長浜バイオ大学ドーム
4. 目 的 平成 29 年度近畿ブロック普及推進会議の開催と近畿ブロック大会視察
5. スケジュール 8 月 13 日（日） 9：30～13：00 大会視察及びヒアリング
13：00～14：00 ブロック普及推進会議
14：00～17：30 大会視察及びヒアリング

6. ブロック普及推進会議 議事録

- 1) 日 時 8 月 13 日（日）13：00～14：00
- 2) 会 場 滋賀県立長浜バイオ大学ドーム 会議室
- 3) 出席者 11 名（敬称略・順不同）

滋賀県	位田敏夫（滋賀県協会理事長）	樋廻茂樹（Jr レイカーズ）
和歌山県	服部康雄（和歌山ハンドボール教室）	
兵庫県	石川敦（明石ジュニア）	
京都府	石田真由美（草内HBC）	
大阪府	林やよい（大浜キッズ）	
奈良県	栗本恭弘（安堵の里ハンドボールクラブ）	
小学生委員	尾崎耕平（近畿委員）	古谷裕邦（九州委員） 谷口聡一郎（北信越委員）

- 4) 資 料 ①ブロック普及推進会議依頼文
②小学生専門委員会名簿
③平成 29 年度第 1 回小学生専門委員会議事録
④ボール比較検討資料
⑤眼鏡及びゴーグル使用に関する資料
⑥いじめ撲滅に関する資料
⑦第 30 回全国小学生大会要項（指導者資格について）

5) 会議内容

開会の言葉 司会者（尾崎耕平：近畿委員）

1. 小学生委員の自己紹介（古谷・谷口）
2. 各府県（各チーム）の自己紹介と現状報告

滋賀県	県内にJrレイカーズと近江八幡の2チームがあり、うち近江八幡は2年前に新しく創設された。 2チームとも中学校へつなげる普及のため、ハンドボール教室として活動しており、Jrレイカーズは1～6年生70名ほど、近江八幡は1～6年生40名ほどで活動している。
和歌山県	県内男女各3チームが活動している。女子部員が減少傾向にある。 和歌山市では中学校に部活動がなく（高校でまた始める子もいる）小学生と中学生カテゴリーでの連携を県協会で検討中である。 指導者については国民体育大会が開催されたことで増加傾向にある。
兵庫県	男子6チーム、女子4チームが活動しており、全国大会予選には男女各4チームが参加している。全国大会予選決勝では県協会派遣の上級審判員が担当してくれている。 なかなか公立の体育館が借りられず私学の体育館を借りている。 小学生の部では審判員が少なく、育っていない。
京都府	京田辺市にて活動チームが男子8、女子6チームある。 部員不足でチームとしては活動していないが、部員がいる小学校も含めると男子9、女子8チームある。 京都市内にクラブチーム（男女）が創設され、活動している。 指導者（先生）の異動などによる指導者不足や部員の減少により、学校ごとのチームが存続できなくなってきた。 体育館整備（空調）が整っていない。
大阪府	全国大会予選参加チームが男子6→4チーム、女子3→2チームに減少した。
奈良県	活動しているチームが4→2チームに減少した。指導者も含めて人が集まらない。全カテゴリーにおいて審判員が不足しており、各カテゴリーでしか活動していない。体育館整備（空調）が整っていない。

普及推進会議は大会の昼食休憩時間中に行われるといった慌ただしいものであったが、各府県の小学生委員を中心に集まっていただき、有意義なものとなった。

7. 大会視察

大会名……………第34回近畿小学生ハンドボール大会

主 催……………近畿ハンドボール協会

主 管……………滋賀県ハンドボール協会
後 援……………(公財)日本ハンドボール協会
参加チーム……男子 20 女子 14
競技場……………9 コート
試合時間……………10 分－(5 分)－10 分 退場 1 分

※詳細は大会要項参照

★所感 (古谷裕邦)

- ・ 38mのコートが9面も作れているのが圧巻だった。天井も高く、開放感抜群の環境で子どもたちが伸び伸びとプレーしていた。
- ・ 審判は予選が1審制で順位決定戦から2審制にかわった。滋賀県ハンドボール協会審判部がしっかりバックアップしているのを感じた。欲を言えば1審制の時にはラインズマンを立てるとよかった。
- ・ 電光掲示板に大会名がずっと出されていてよかったが、どのコートでどのチームとどのチームが対戦しているかの表示やスコアがリアルタイムで更新されれば、もっとすばらしいと思った。
- ・ 競っているか力が拮抗したチーム同士の試合以外は、ほとんどのチームが3-3ディフェンスを基本に守っていてJクイックの趣旨にそったゲーム展開がなされていた。Jクイックの浸透度が高いと感じた。
- ・ 2日間開催にして、もっと多くのチームを呼んだら、すごい大会になると思う。
「近畿圏の4位までのチーム全部」というくくりなどにできれば大規模な大会にできるのではないか。(4チームもないところは多い県で補充するなど)

★所感 (谷口聡一郎)

- ・ 8コート同時進行の時間帯もあったが、各府県から派遣された審判員と地元高校生によるオフィシャルにて試合運営がしっかり行われていた。ただ、時間の表示がなく各チームで管理しており、終了時間がわかりづらい面があった。
- ・ 参加チームが多く1日での大会だったが、予選リーグや順位決定戦があり、各チーム試合数を確保できていた。また、京都府以外はオープン参加であり、チームからA・Bの2チームが参加できることも普及につながっていると感じた。
- ・ 指導者に女性の方が多いように感じた。女子チームに女性の指導者がいるのは強みだと思われ、女性目線での指導もチームにとってプラスに働くと思う。

- ・チーム応援がベンチの横で行うことができたため、アットホームな雰囲気が感じられた。
- ・年々、参加チーム（特に女子チーム、女子の競技人口）が減少しているとの話を聞き、全国的に課題となっていることを改めて実感した。

大会の様子・会場の様子（写真付）



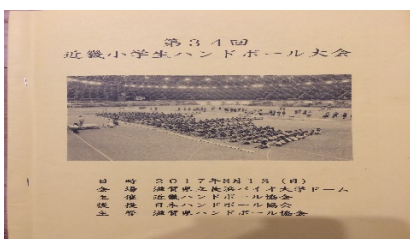
優勝トロフィー

男女各3位までトロフィーと賞状が準備してあった。



開会式

電光掲示板に大きく開会式の内容が映し出され、保護者や観客にもわかりやすいようになっていた。



プログラム

要項・日程・名簿はもちろんのこと、代表者会議の内容も記載されており、重要なことを共有できるものになっていた。



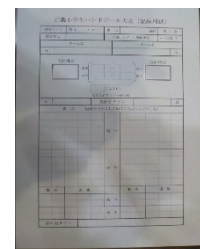
大会名の表示

大きな電光掲示板に映し出され、大変見やすいものであった。



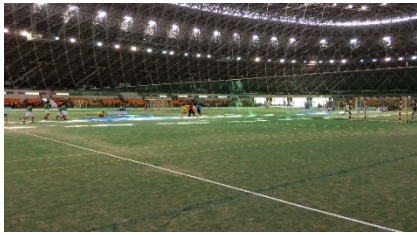
記録席

試合数が多いこともあり、独自のスコアシートを活用し、管理しやすいようになっていた。



オフィシャル
得点掲示

オフィシャルは河瀬高校と彦根翔西館高校のハンドボール部が全て行っていた。



コート全体写真

アウトコートであったため、滑ってしまう場面もあったが、毎年同じ会場で大会が行われていることもあり、選手たちは慣れた様子であった。



受付

開催地である滋賀県チームの保護者が担当していた。各府県別に受付場所が分かれており、大変わかりやすいものになっていた。



試合風景

予選リーグは1審・順位決定戦は2審であったが、隣のコートの笛と間違えることもなく、スムーズに進行されていた。



ベンチ

選手全員が座るスペースはなかったが、ブルーシートを敷き、座って試合が見られるよう配慮してあった。



救護

大阪ハイテクノロジー専門学校のトレーナーチームが待機してくれており、ケガ等についても十分な配慮がされていた。



閉会式

最終試合後、すぐに式の準備がされて閉会式が行われた。

閉会式同様、内容は電光掲示板に映し出された。



【男子】

優勝：キタイスポーツA
2位：草内HBC
3位：川西コジマーズ
3位：明石ジュニア

10分-5分-10分の試合ではあったが、優勝するまで5試合を勝ち抜く必要がある中、高い攻撃力を誇るキタイスポーツAが優勝した。



【女子】

優勝：きさきネクサスA
2位：真弓クラブA
3位：安堵の里HBC
3位：薪小学校HBC

男子同様5試合を戦う中、固いディフェンスが光ったきさきネクサスAが優勝を飾った。

(公財)日本ハンドボール協会
 指導普及本部 育成部
 小学生専門委員会 御中

ブロック普及推進会議：四国ブロック大会視察について

小学生委員会副委員長 高橋 伸幸
 ブロック委員 (中国) 濱口 靖

標題に付き、下記の通りご報告申し上げます

記

1. 参加者 小学生専門委員会 副委員長 高橋 伸幸 ブロック委員 (中国) 濱口 靖
2. 期 日 平成 30 年 1 月 20 日 (土) ～ 21 日 (日)
3. 会 場 高松市香川総合体育館 (体育館・屋外球技場)
高松市立塩江中学校 (体育館・グラウンド)
4. 目 的 平成 30 年度四国ブロック普及推進会議の開催とブロック大会視察
5. スケジュール 1 月 20 日 (土) 9 : 00 ～ 18 : 00 交流大会視察及びヒアリング
18 : 20 ～ 19 : 30 ブロック普及推進会議
1 月 21 日 (日) 9 : 00 ～ 16 : 00 近県大会視察及びヒアリング

6. ブロック普及推進会議 議事録

- 1) 日 時 1 月 20 日 (土) 18 : 20～19 : 30
- 2) 会 場 高松市香川総合体育館 会議室
- 3) 出席者 23 名 (敬称略・順不同)

四国協会			
香川県	ニノ宮弘樹 (長尾)	橋川浩幸 (長尾)	十河保宏 (長尾)
	池本哲也 (長尾)	林 秀樹 (讃岐)	植村真由美 (讃岐)
	土居孝行 (讃岐)	深谷健也 (綾川)	伊賀 淳 (綾川)
	堀井慎司 (綾川)	高橋淳二 (川島)	谷口真有美 (川島)
	廣田麻希 (川島)	黒川勝則 (塩江)	木岡 弘 (香川町)
	平木一令 (香川町)	内海宏治 (香川町)	藤澤英人 (香川町)
愛媛県	石川文春 (新居浜)	元藤 響 (今治)	
高知県 徳島県	20 日 (土) の交流戦のみ参加。帰宅時間の関係により会議不参加。		
小学生委員	高橋伸幸 (副委員長)	松浦淳祐 (四国ブロック委員)	濱口 靖 (中国ブロック委員)

- 4) 資 料
 - ①ブロック普及推進会議依頼文
 - ②小学生専門委員名簿
 - ③眼鏡及びゴーグル使用に関する資料
 - ④いじめ撲滅に関する資料
 - ⑤ボール比較検討資料

- ⑥2017 個人スキル実施についての報告
- ⑦NTSセンタートレーニング資料
- ⑧小学生ゲーム形式アンケート調査
- ⑨2017 指導者数と保有する資格に関する調査
- ⑩Jクイック導入の効果について
- ⑪第30回全国小学生ハンドボール記念大会アンケートのまとめ
- ⑫第3回小学生委員の議事録

5) 会議内容

開会の言葉 司会者（松浦淳祐：四国ブロック委員）

1. 小学生委員の自己紹介（高橋副委員長・濱口）
2. 各チームの自己紹介と現状報告

長尾 (香川県)	創設9年目。 高学年男子12名、女子12名。低学年男子0名、女子7名。 週3回練習、1回3時間。 指導者8名。
讃岐 (香川県)	創設3年目。 高学年男子12名、女子12名。低学年男子15名、女子5名。 週1回練習、1回3時間 指導者12名
綾川 (香川県)	創設8年目。 高学年男子24名、女子12名。低学年総数46名。 週1回練習、1回3時間～3時間半。 指導者10名。
川島 (香川県)	創設3年目。 高学年男子11名、女子5名。低学年男子20名、女子3名。 週2回練習、1回3時間。 指導者7名。
塩江 (香川県)	創設20年目。 高学年男子16名、女子12名。低学年総数10名。 週2回練習、1回2時間～3時間。 指導者11名。
香川町 (香川県)	創設25年目。 高学年男子32名、女子15名。低学年総数20名。 週1回練習、1回3時間。 指導者10名。

新居浜 (愛媛県)	創設10年目。 部員総数60名。 週1回練習、1回4時間。 指導者10名(時折、高校生が指導に来てくれる)
今治 (愛媛県)	創設10年目。 高学年男子7名、女子4名。低学年男子2名、女子2名。 週1回練習、1回3時間。 指導者4名。
愛媛 (愛媛県)	創設25年目。 部員総数70名。 週1回練習、1回3時間～4時間。 指導者5名。
徳島ジュニア (徳島県)	創設3年目。 高学年男子5名、女子3名。低学年男子4名、女子3名。 週1回練習、1回3時間。 指導者3名。
池田スポーツクラブJr. (徳島県)	創設1年目。 高学年男子4名、女子2名。低学年男子3名、女子0名。 週1回練習、1回3時間。 指導者2名。
NARUTO総合型 スポーツクラブ (愛媛県)	創設4年目。 高学年男子6名、女子0名。低学年男子2名、女子4名。 週1回練習、1回3時間。 指導者3名。
高知JHC (高知県)	創設6年目。 高学年男子15名、女子7名。低学年男子13名、女子4名。 週2回練習、1回3時間。 指導者7名。
くろしおHC リトルスターズ (高知県)	創設3年目。 高学年男子9名、女子5名。低学年男子8名、女子2名。 週2回練習、1回3時間。 指導者5名。

※徳島県、高知県は帰宅時間の都合により会議には不参加でしたが、事前に活動報告書を提出していただきました。

6. 小学生専門委員会より報告 副委員長 高橋伸幸
7. その他(各チームでの問題点や、日本協会に聞きたいことなど)

Q: NTSブロックトレーニングでGK専門のインストラクターがないのでGKトレーニングができていないと思う。

A: 今後ブロック内で積極的にGKインストラクターを作っていくことが必要。

(諸意見)

- ・ Jクイックルールで試合時間が決まってはいるが、実際に3セットゲームをやるのは全国大会予選のときだけ。15分×2セットにすれば疲れたら選手交代するので反対に多くの選手が出場できる。
- ・ ベンチ入りメンバーは多ければ多いほど良い。小学生の段階でメンバー選考する必要はないと思う。
- ・ GKの為にゴールの大きさを変更するという検討についてはハンドボールは点取りゲームなので得点できないとつまらなくなる。また小学生の現在はGKでも中学生になればFPになる場合もあるので今だけの為に変更は必要ない。

8. 大会視察

大会名……………高松市協会長杯 近県小学生ハンドボール大会

主 催……………高松市ハンドボール協会

主 管……………香川町ハンドボールスポーツ少年団

後 援……………香川県ハンドボール協会、香川県ハンドボール協会小学生部門、香川銀行
(株)モルテン、(公財)高松観光コンベンション・ビューロー

参加チーム……男子4 女子3

競技場……………高松市香川総合体育館	34m×20m (2コート)
高松市香川屋外球技場 (アウトコート)	37m×20m (1コート)
高松市立塩江中学校体育館	38m×20m (1コート)

試合時間……………10分-(5分)-10分 交流試合は15分

※詳細は大会要項参照

★所感 (高橋伸幸)

- ・ 交流戦も含め各チーム8試合以上でき子供もスタッフも大変満足している様子が窺え、運営も高松市平木氏を中心に保護者、地域の方々が積極的に参加していて、とてもスムーズでした。中学、高校の指導者も積極的に大会運営に参加されていて高松市ハンドボール関係者の一体感を強く感じた。
- ・ 審判も若手育成を謳っていて上級審判が若手審判とペアを組んでおりジャッチに不自然さは感じられなかった。
- ・ 屋外コートの試合は明らかに室内に比べフットワーク、ボールハンドリングについてのパフォーマンスは低下していたので、出来ればカップ戦は室内で行われるのが良いと感じた。
- ・ 男女共にほぼ全チームがオープンディフェンスでJクイックが浸透しているブロックと感じた。試合中のマナーはベンチも含め各チームとても良かったと思う。ただ交流戦でも一試合通して相手エースにマンツーマンディフェンスするチームもありもう少しプレー時間を与えたいと感じた。
- ・ 閉会式も各種賞があり、とても楽しい雰囲気で大회를終了し小学生のプライベート大会として、とても好感度の高い大会でした。

★所感（濱口 靖）

- ・大会運営は香川町ハンドボールスポーツ少年団代表 平木一令様を中心に非常によくまとまっており、マイクパフォーマンスを含んだ随時的確な指示で各出場チームがスムーズに試合を開始・終了することができており大会運営力の高さが非常に印象を受けました。
- ・市協会会長の挨拶で「現在、香川県高松市出身の日本リーグ選手は9名、そして先日開催された女子世界選手権（ドイツ）に1名出場している。」との言葉があり、子供達の目標をしっかりと伝えている話を聞いて開催地香川県高松市のハンドボール熱を非常に感じました。
- ・開会式で「この大会は審判員の育成も兼ねている」と予め伝えており、選手はもちろん審判員の向上にも一役かっている大会でした。また2日目には全国大会優勝経験のある地元高松商業高校の田中潤監督も審判員として参加されて地元への貢献をされていました。

大会の様子・会場の様子（写真付）



優勝カップ

三位までトロフィーがありベストセブンなど各種特別賞が準備されていた。



記念品

2019年熊本女子世界選手権、2020年東京オリンピックを応援する記念手提げ袋が参加者全員に配布された。



開会式

塩江会場でのチームは不参加だったが、盛大に行われた。



プログラム

カラー印刷で交流戦も含む全試合がわかりやすく掲載されていた。東四国国体のキャラクターが大人になっていた。



記録

全会場で交流戦も含め全試合の試合が随時更新されカラーで見やすい掲示板であった。



記録席・得点掲示

ステージ上に記録席があった。マイクも用意しており、放送席も兼ねていた。



オフィシャル

オフィシャルは香川県小学生保護者、中学校関係者が全て行っていた。



会場
(香川総合体育館)

34m×20mのコートが2面並んだ配置で少し狭さを感じたが、コートサイドにもパイプ椅子が用意されて保護者も子供達のすぐ近くで観戦していた。



コート全体写真
(香川屋外競技場)

37m×20mのグラウンドのコートで選手がボールを握れない場面も見られたがトラブルもなく進行された。



コート全体写真
(塩江小学校・中学校
校体育館)

38m×20mのコートでキャットウォークもあり、ハンドボールをメインに設計されている体育館であった。



普及推進会議

香川県平木氏を中心に各チーム友好的で温かい雰囲気の中会議は進んでいった。ボールサイズの議論など時間を延長する事になるなど有意義な会議になった。



閉会式

最終試合後、すぐに式の準備がされて閉会式が行われた。成績発表のあと表彰となった。当日誕生日の選手に全員でバースデーソングを合唱するなど暖かい雰囲気の中閉会した。



【男子】

- 優勝：キタイスポーツ
- 2位：大分県選抜
- 3位：広島県選抜

トーナメント戦で行われ、県選抜チームの出場が多い中、GK、エースを中心に安定した試合運びでキタイスポーツが優勝を飾った。



【女子】

- 優勝：大分選抜
- 2位：広島県選抜
- 3位：三重選抜

三位まで選抜チームという順位の中で3-3 システムのディフェンス力で頭一つ抜きこんでいた大分選抜が優勝を飾った。

平成 29 年 11 月 13 日

(公財)日本ハンドボール協会
指導普及本部 育成部
小学生専門委員会 御中

ブロック普及推進会議：中国ブロック大会視察について

ブロック委員（九州） 古谷 裕邦

ブロック委員（四国） 松浦 淳祐

標題に付き、下記の通りご報告申し上げます

記

- 主 催 中国ハンドボール協会
- 主 管 山口県ハンドボール協会
- 後 援 周南市ハンドボール協会・周南市教育委員会・公益財団法人 周南市体育協会
下松市ハンドボール協会・下松市教育委員会・下松市体育協会
- 特別協賛 菅公学生服株式会社
- 日 時

平成 29 年 10 月 21 日（土）	平成 29 年 10 月 22 日（日）
代表者会議 9:00 ～	試 合 9:00 ～ 15:30
開 会 式 9:30 ～	閉 会 式 16:00 ～
試 合 10:00 ～ 17:00	
小学生員会 17:00 ～ 18:30	

6. 会 場

高学年男女	低学年
キリンビバレッジ 周南総合スポーツセンター	下松スポーツ公園体育館

7. 小学生委員会議事録

(1) 各チーム状況

県 名	チーム名 氏名	チーム状況
広島県	メイプル Jr (山下伸治)	高学年男子 8 名、女子 7 名。低学年 9 名。複数の学校で構成しているのので、学校行事等でそろいにくい。週 2 回練習。他のチームから加入してもらっている。
	呉ジュニアハンドボールクラブ (林原洋仁・楠原誠吾)	高・中学年男子 14 名、女子は人数不足のため、メイプルに加入。他のスポーツに流れている傾向にある。来年は人数不足になるかも。来年 5 月に大会計画。
岡山県	瀬戸オールスターズジュニア <下津井> (永山久次)	男女 8 名。来年はそろわない。中学校も 1 クラス。学校規模が小さい。部としてもそろわない。部員確保のための協会からのアドバイスがほしい。
	天城ジュニアハンドボールクラブ (山本敏樹・山本真弓)	中高連携事業が開始され、10 年。その時に小学校も高校の体育館を借りて週 2 回始める。4 年前に中学校でも部活ができる。そのため、小学校でも始める子が徐々に増えている。

	倉敷サンライズジュニアハンドボールクラブ (塩津健太郎)	今年7月に創部。各カテゴリー10名程度。低学年もぎりぎりである。
山口県	IDBスポーツクラブ (本田晃一・原田智光)	以前は100名ほどいたが、減少している。高学年男子20名、女子15名、低学年20名程度。週2回(金・土)、大会前は3回。年2回IDBカップを実施し、中国・四国・九州のチームが出場している。昨年度・今年度は、韓国との交流戦を実施し、韓国との試合で子どもたちはよい経験ができた。
山口県	岩国レインボー・キッズ (林孝志)	男子各学年5名程度。女子1チームできないのが現状。
	V-POWERS 岩国ハンドボールクラブ (野口進)	この名称にして10年。高学年男子15名、女子7名。低学年20名。週2回。以前は夏合宿をしていたが今はしていない。スタッフ不足。
	下松ジュニアハンドボールクラブ (中村 朗)	創部6年。130名程度。コーチ9名。保護者負担が少ないので入部しやすいのかも。週3回、低・中・高年別で練習を実施している。
	リトル・ガッツ (松田 久夫)	高学年男女10名程度。低学年15名。他のスポーツも兼ねている子もいる。練習に来るのは10名前後。体育館が取れた時は、練習試合を入れている。
鳥取県	米子ジュニアハンドボールクラブ (小澤美紀子)	創部3年。冬休みに体験教室を実施。体協や教育委員会に協力をしてもらっている。高学年男子30名、女子8名。週2回。中学生も一緒にしている。
	境港マリンバード (濱口靖)	高学年男子17名、女子7名。低学年12名。兄弟姉妹で幼稚園の子も始めている。他県に行くのが遠いが保護者の理解があり、他県の大会に行けている。
島根県	HC江津ジュニア (山本孝志)	県内1チーム。創部10年。松江の高校には部活があり、創部の依頼をするが、叶わない。高学年男子10名。部員40名。試合の経験を多くさせている。

8. 写真記録

会場 ○キリンビバレッジ 周南総合スポーツセンター (左) ○ 下松スポーツ公園体育館 (右)



キリンビバレッジは、アリーナに2面、サブに1面の全3面のコートであった。下松スポーツ公園体育館は1面であったが、コートの横でアップができる余裕がある広さであった。



開会式



5県から17チーム出場(各カテゴリー数46チーム)、出場選手数約500名の大規模な大会で、山口県ハンドボール協会会長 藤井律子氏のご臨席のもと、第13回中国ブロック小学生交流大会の開会式が実施された。

大会優勝カップや横断幕等



高学年男女、低学年男女での優勝・準優勝カップが用意されていた。中国ブロックを時計回りで、大会開催をしており、来年は、島根で実施される予定。横断幕も立派であった。

試合の様子



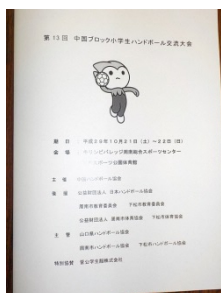
Jクイック様式で高いDFを用いているチームが多く、全体的にアクティブなゲーム展開であった。OFもボール展開が速く、速攻や攻撃のきっかけ作りも各チームでよく練られていた。低学年ゲームは0号球を用いていた。低学年から攻守がよくできていた。

小学生委員会



11チーム、16名の参加数で実施。各チームが部員確保の仕方を模索しており、協会にも助言を求めている。また、指導資格取得に向けた研修会の実施の仕方の改善も求められた。地域性の異なるが、ハンドボールにかける指導者の熱い思いが伝わる会となった。

受付の様子や冊子



対戦表やタイムテーブル表が各会場に拡大印刷で表示されており、見やすくなっていた。弁当の配布場所や冊子・記念Tシャツ販売所になっていた。スポンサーである菅公のテーブル掛けが印象的であった。

開会式



台風の影響で交流戦を切り上げ、帰県するチームも午後からあったが予定通り決勝戦まで実施できた(結果は別紙のとおり)

表彰は、岩国市教育委員会教育長 佐倉弘之甫氏が行った。上位入賞した各チームの代表の選手は誇らしげに賞状を授与されていた。

9. 結果

順位	高学年男子	高学年女子	低学年
優勝	呉ジュニアHC (広島県)	総社クラブ (岡山県)	呉ジュニアHC (広島県)
準優勝	岩国レインボーキッズ (山口県)	IDBスポーツクラブ (山口県)	岩国レインボーキッズ (山口県)
3位	総社クラブ (岡山県)	広島メイプルレッズジュニアクラブ(広島県)	IDBスポーツクラブ (山口県)
4位	境港マリンバード (鳥取県)	岩国レインボーキッズ (山口県)	境港マリンバード (鳥取県)

10. 所感

視察員 古谷裕邦(九州ブロック小学生委員)

- ・ ブロック大会にジュニアの部があることに驚かされた。引率・指導は大変だとは思いますが子どものモチベーションをあげるにはすごくよいと思った。試合機会が少ない低学年が広いコートで思い切り試合が出来たり、この年代の時に他県の子どもたちと試合ができたりすることはとても意義があると感じた。今後も是非続けて欲しいし、他のブロックでも可能ならば実施するとよい。
- ・ 会場は38m近いコートが3面も作られているのが圧巻だった。施設も整備されており、すばらしい環境で子どもたちが伸び伸びとプレーしていた。
- ・ 県の会長さんと話ができて大変有意義だった。山口協会の一般女子の競技者を増やしていく取組が企業とタイアップして地道に続いていることがよくわかった。大学や高校で競技が終わるのではなく、生涯スポーツとしてハンドボールのすそ野を広げていかなければ将来はないという意図を強く感じた。会長自ら先頭に立ってそれを実践しているのがすばらしかった。
- ・ 会議で指導者の資格義務づけについて、「なぜか」という意見があった。私自身がうまく意義を伝えることができなかつたかもしれない。全国大会だけでなく各地域、とりわけ各県での丁寧な説明が必要であると感じた。またJ級講習会を各県レベルで気軽に開催していくシステムを作らなければならないと思った。

視察員 松浦淳祐(四国ブロック小学生委員)

- ・ ジュニアの部の審判がやや不足しており、連続で笛を吹いていた。帯同審判制をとるとよいと思った。1審制だったのでラインズマンを立てるとよい。上のカテゴリーは中国ブロックの審判員が協力して吹笛していたが、こちらも人数が少なくて一人がたくさん笛吹しないといけない状況だった。若手の審判員、特に女性審判が多いのが他地域とは少し違っていた。
- ・ ほとんどのチームが高いディフェンスを行っていた。中国ブロックでもJクイックが浸透してきているのを感じた。攻守の切り替えやセット攻撃のバリエーション、個々の動きなど、小学生段階からよく練習し、一人一人がよく考えてプレーしていると感じた。
- ・ 山口県は、小学生から育った選手が大学や社会人でもハンドボールができるように人材育成がなされていると感じた。そのため、大会スタッフや審判、チームの保護者などが一体となって大会運営をしていた。小学生もそうした環境の中でハンドボールをすることになるので、選手としてより一層プレーに集中したり、意欲的に取り組んだりする姿勢が自ずと身についていくのではないかと感じた。
- ・ 台風が接近する中での大会運営になった。大会運営側はヤキモキする状況であったと思うが、先々を考え情報を発信して各チームが困らないようにしていた。そのため各チームも臨機応変に対応しており、中国ブロックのまとまり感が伝わってきた。

平成 29 年 12 月 25 日

(公財)日本ハンドボール協会

指導普及本部 育成部

小学生専門委員会 御中

ブロック普及推進会議:九州ブロック大会視察について

ブロック委員(関東) 宮川 晋

中央委員 濱野 健一

標題に付き、下記の通りご報告申し上げます

記

1. 視 察 小学生専門委員会:ブロック委員(関東) 宮川晋 ・ 中央委員 濱野 健一
2. 期 日 平成 29 年 12 月 22 日(金)～24 日(日)
3. 会 場 宮崎市総合体育館・宮崎市青少年プラザ・宮崎県立宮崎大宮高等学校体育館
4. 目 的 平成 29 年度九州ブロック普及推進会議の開催と九州ブロック大会視察
5. スケジュール
12 月 22 日(金) 15:30 ～ 17:30 諸会議/開会式視察
12 月 22 日(金) 17:30 ～ 19:30 ブロック普及推進会議
12 月 23 日(土) 08:00 ～ 16:00 大会視察及びヒアリング
12 月 24 日(日) 09:00 ～ 16:00 大会視察及びヒアリング
6. ブロック普及推進会議 議事録
 - 1) 日 時 7 月 22 日(金)17:30～19:30
 - 2) 会 場 宮崎市総合体育館「大会議室」
 - 3) 出席者 16 名(敬称略・順不同)

九州協会	児玉 浩三郎 (九州協会理事長)		
福岡県	政田 佳之(HC 春吉 Jr)	外口 智久(HC 春吉 Jr)	城野 康介(かすやブルーガッツ)
佐賀県	阪 昭博(神埼ジュニア)		
長崎県	土岐 克敏(小島小 HC)	山越 博光(諫早 HC)	宮地 瑞恵(春日 HC)
熊本県	栢田 真一(豊福小学校)		
大分県	古谷 裕邦(九州ブロック委員)		
宮崎県	石崎 幸正(宮崎県協会)		
鹿児島県	池田ゆう子(霧島ジュニア)	篠原すみえ(霧島ジュニア)	
沖縄県	長嶺 翔太(沖縄県協会総務部)		
日本協会	宮川 晋(関東ブロック委員)	濱野 健一(中央委員)	

4) 資 料

- 1 ボール比較検討資料
- 2 眼鏡及びゴーグル使用に関する資料
- 3 いじめ撲滅に関する資料
- 4 2017 個人スキル実施についてのご報告
- 5 2017指導者数と保有する資格に関する調査
- 6 Jク イック導入の効果について
- 7 第 30 回全国小学生ハンドボール記念大会アンケートまとめ
- 8 第 3 回の小学生委員会の議事録

5) 会議内容

開会の言葉 司会者(古谷 裕邦:九州ブロック委員)

1. 小学生委員の自己紹介 (宮川 晋・濱野 健一)

2. 各都県(各チーム)の自己紹介と現状報告

福岡県	<p>チームが増える傾向。他地区でも立ち上げ。小学校の低学年は教室、4年生以上はチーム活動。ここ3~4年の人数は横ばい。</p> <p>全体としては、男子は増加。女子は6チームから4へ減。女子の普及が課題。少しずつチームは増加。チーム間交流は少ないかもしれない。</p>
佐賀県	<p>3チームあるが、2チームは人数不足で試合参加が難しい。</p> <p>今後、人数普及に努めたい</p>
長崎県	<p>男子は人数も多いが、女子は少なくて試合に出れない。</p> <p>最近、チームが増えた。他スポーツに比べ、選手が少ない</p> <p>佐世保市で教室実施の結果、人数は増加傾向</p> <p>長崎市は2チームあるが、1チームは教会登録なし</p> <p>登録のないチームは人数は多い。今後に期待。</p> <p>今年の8月に日韓交流を実施。</p> <p>他県と合同で、参加予定</p> <p>各チームの人数確保が課題</p>
熊本県	<p>10年前から比べるとチーム数が激減</p> <p>30年までに学校単位からクラブへ移行予定なので、さらにチーム数が減る可能性が高く、指導者・スタッフの減少が心配</p>
大分県	<p>男子は横這い。女子はチーム数12から4に減少。しかも人数もギリギリ。</p> <p>指導者の若返りが課題。若い指導者の育成に注力したい。</p> <p>下郡でも人数が減少傾向。体験教室を実施して勧誘。低学年は増加している。</p> <p>そのほかハンド教室が複数あり、期待される</p>
宮崎県	<p>県内6地区で教室を行っている。低学年世代は増加傾向。ただし6年生は少ない。小学生スタッフが少ないため、運営が厳しい。</p>
鹿児島県	<p>男子5女子3、女子は減少傾向。3年後の国体に向けて、霧島市で小学校でハンドボール教室を開催。が、女子がなかなか増えない。始良スポーツクラブでの体験教室では、ジュニア活動人数が増加。</p>
沖縄県	<p>浦添市でも女子は減少。合同チームで活動してしのいでいる。男子はチーム増加。小学校単体ではなく、クラブでの参加。今後、小学校チームとクラブの共存が課題。</p>

3. 小学生専門委員会より報告 宮川 晋、濱野 健一
 - ・資料に従い、濱野委員が詳細説明。
 - ・九州理事長：J級指導者だけでなく、指導員資格含め、小学生部門だけでなく、ブロック協会・県協会全体で動く必要がある。各県協会で開催可能か検討、もしくはブロック協会での開催が可能か検討すべきか。

4. その他(協会に聞きたいことなど)
 - ・時間の都合で割愛。大会会場などで都度、ヒアリングすることに。
 - ・会場各地で、各指導者と懇談および説明。
 - ・指導者資格やNTSの今後についての質問が多いと感じた。

5. 日韓小学生交流について：九州理事長
 - ・北部4県案(福岡・佐賀県・長崎県・大分県)にての合同参加にて検討中
 - ・実施要項(案)提示
 - ・時期:8月20日以降 5日間
 - ・日本協会負担以外の必要費用負担は参加4県+九州協会の5団体による均等割り負担(案)

6. NTSについて：鈴木NTSブロック運営委員
 - ・次年度のブロックTRの小学生宿泊について、土日開催なら可能か、要検討。

7. 小学生(専門)委員の持ち回りについて：古谷委員
 - ・前任の和田委員から引き継いで9年。NTSブロックU12指導普及委員長を兼ねて6年。
 - ・次の委員への次世代継承の方法について、各県持ち回りはいかがか？
 - ・九州ではブロック理事長と事務局が2期4年で持ち回っている。
 - ・この流れで当該県から小学生ブロック委員とU12技術指導委員を選出する。ただし、兼任を避ける。

8. 九州小学生親善大会について
 - ・次年度の大分大会日程について、1月12～14日にて開催。NTSと日程が被る可能性がある。
 - ・組み合わせ申し合わせ事項の明文化が必要。抽選方法も含め・要検討。

9. その他
 - ・宿泊については、九州協会申し合わせ事項に基づき、大会指定の斡旋業者を通じて宿泊する事。

7. 大会視察

大会名……………第38回 九州小学生親善ハンドボール大会
 主催……………九州ハンドボール協会
 主管……………宮崎県ハンドボール協会
 後援……………宮崎県教育委員会 宮崎市教育委員会 公益財団法人宮崎県体育協会 宮崎日日新聞社
 協賛……………公益財団法人みやざき観光コンベンション協会 公益財団法人宮崎市観光協会
 参加チーム……男子16 女子16
 競技場……………36m×20m(4コート)
 試合時間……………予選リーグ 8分-3分- 8分-3分- 8分
 決勝トーナメント 10分-5分-10分-5分-10分

(延長 3分-1分- 3分)

退場時間は、予選・交流戦は1分間。決勝トーナメントは2分間。

松ヤニ・両面テープは禁止。

タイムアウトは決勝トーナメントのみ実施。

※詳細は大会要項参照

★所感(宮川 晋)

- ・初参加の九州大会は、ブロック大会の域を超え、全国大会並みの運営と高レベルの試合内容で、驚くことが非常に多かった。
- ・予選リーグで敗退しても、下位交流戦が活発に行われており、試合機会の均等が図られている点は好感が持てる。
- ・競技初日は全てのチームが3試合、2日目は、決勝進出で3試合の最大計6試合であったが、体力的にも特に問題は無いようであった。
- ・翌日以降に高校の選抜予選を控え、県内審判員の確保が厳しい状況の中で若手審判員の育成が図られていたが、チーム力の拮抗する試合での吹笛では、苦悩する場面も見受けられた。
- ・児玉九州理事長の元、主管 宮崎協会による大会運営は、ほぼ小学生関連指導者により行われており、宮崎から6チーム参加の為、スタッフ確保が難しい中、少人数ながら経験豊富な役員の力量に感服した。
- ・各指導者からのヒアリングでは、NTS への関心が高いと感じた。
- ・九州大会に参加チームであっても、選手確保に苦勞している地域が多く、女子選手の減少は、九州においても同様で、日本全体で考えなくてはならないとあらためて感じた。
- ・小学校単位での活動の歴史のある九州地区でもスポーツ少年団への移行が進んでおり、指導者育成・確保とチーム運営方法が課題と感じた。

★所感(濱野 健一)

- ・児玉九州ブロック理事長が出席され、大会全体の品格の高さが感じられた。
- ・代表者会議では、児玉九州ブロック理事長より、きめ細かく大会の中の確認事項が読み合わされて、大会の重みを感じると共に大会規模の大きさを感じました。
- ・大会では、審判員のジャッジレベルの差が残念に感じる試合が見受けられました。
- ・全体を通じて、試合内容も高レベルであると感じました。
- ・ブロック普及会議においては、どこの県でも選手の獲得に苦勞されており、女子選手は特に厳しい状況である報告を受けました。
- ・資格取得についても、県単独でのJ級資格取得講習を開催するのは、大変であろうという観点より、ブロックで対応していく方向で意見が出されました。

大会の様子・会場の様子(写真付)

 	<p>優勝カップ</p> <p>優勝旗</p>	<p>男女優勝チームには優勝カップ(日本協会長杯と九州協会長杯)・大会優勝旗が授与される。</p> <p>3位までの入賞チームにはチーム表彰。</p> <p>個人には、上位4チームから選出されるベスト7賞が授与される。</p>
	<p>代表者会議</p>	<p>九州理児玉事長以下主管宮崎協会の幹部が出席し開催。端的でわかりやすく、疑問にも即答がなされた、しっかりとした会議であった。ただ、終業式当日ということもあり、代表者会議に間に合わないチームが複数あった。</p>
 	<p>開会式</p>	<p>激戦の九州各県の予選を勝ち抜いた、男子16チーム 女子16チームが参加。</p> <p>入場行進・選手宣誓もしっかり姿勢を正して、節度ある開会式であった。</p> <p>寒さもあり、ユニフォームではないが、各チーム揃いのウェアで参加していた。</p>
	<p>プログラム</p>	<p>各チームの写真入りで、学年、身長が記載されていた。栄光の足跡が記載されていて第37回大会までの歴代の優勝・準優勝チーム名が記載されていて歴史の重みを感じた。全国大会並みの非常に立派なパンフレットであり、また巻末に開催地宮崎県出身の日本リーグ選手が選手からのコメントと共に、カラー写真で紹介されていたのが良いと感じた。</p>

	<p>ID カード</p>	<p>フルカラーの素晴らしい ID カード。 大会中もスタッフは常時身に付けており、運営への意識が強いと感じた。</p>
	<p>普及推進会議</p>	<p>九州ブロック児玉理事長にも最後まで、ご参加いただき、ブロック委員の古谷さんの進行にて、各地区及びチームの現状報告では悩みや今後の課題について代表者から報告。小学生専門員会からの報告の後には九州地区の諸問題など、意見交換が弾み予定時間を大幅に超過して活発に行われた。</p>
	<p>大会名の表示 場内の掲示</p>	<p>大会の横断幕はメイン会場体育館ステージに国旗・県旗・九州協会旗・宮崎県協会旗とともに大きく表示されインパクトがあり迫力のある横断幕であった。 体育館中央には、掲示板が設置され、試合結果が表示されていた。 駐車場ほか、会場内各所にも案内表示が多数設置され、非常にわかりやすい。 このため、導線上も含め、どこにも遅滞・混乱は特に見られず、観客席も余裕があり、保護者も節度ある応援であった。</p>
	<p>オフィシャル 審判員</p>	<p>JHA オフィシャルはおかず TD2名(予選リーグ・準々決勝は1名)は開催地である宮崎県協会役員、補助員は宮崎県高体連所属の生徒で行われていた。 記録用紙は、Jクイック記録用紙を使用。 審判員は、宮崎県協会審判部所属の上級審判員を中心に熊本・鹿児島からの派遣審判員も含め、有資格審判員による運営が行われていた。</p>

	<p>ベンチ</p>	<p>チーム名記載のプラカードにより、観客席からも明確であった。パイプ椅子が選手分 20 脚が使用されていたが、36m コートで 20 脚なので、ベンチ終端が、7mライン延長線上には収まらないのは仕方がないと感じた。ただベンチの始端が、コーチゾーンではなく、交代地域付近から並べられていたのが少し気になった。</p>
	<p>得点・時間表示</p>	<p>全コート、デジタイマー加算式にて、オフィシャル席と対面連動にて時間・得点掲示。退場掲示は、オフィシャル席に退場用紙で対応。九州では、申し合わせにより対面掲示の場合、セット毎に得点掲示のチェンジを行っているとの事。</p>
	<p>補助員</p>	<p>試合中コートサイド対角でモップ拭きの補助員が 3 人配置され、試合中に床が濡れても即対応されていた。</p>
	<p>コート全体 ※画像の上から 宮崎市総合体育館 青少年プラザ 宮崎大宮高体育館</p>	<p>36m のコート。 メイン会場である宮崎市総合体育館 2 面。青少年プラザ 1 面。隣接の宮崎大宮高 1 面の計 4 面にて予選実施。どの会場もしっかりした設営と運営で、会場による差のようなものはなく、応援席もきちんと確保されていた。各会場責任者の管理のもと、滞りなく競技運営がなされていた。</p>

	<p align="center">物販と ツアーデスク</p>	<p>メイン会場に物販コーナーがあり期間中、賑わっていた。 またツアーデスクが設置され期間中、プログラム販売・宿泊と弁当の対応がなされていた。 各会場に弁当の配布コーナーが設けられていて対応していた。</p>
	<p align="center">閉会式</p>	<p>男女上位4チームの参加による閉会式。講評では「男子準決勝において、山鹿は追いつがる日岡のスーパーエースにマンツーマンなどをせず堂々と闘った事は親善大会の名に相応しい好ゲームであった。」と優勝した山鹿のフェアプレーが賞賛された。 次年度は大分県開催。</p>
	<p align="center">【男子】 優勝:山鹿小学校 2位:明野西スポ少 3位:豊福小学校 3位:日岡スポ少</p>	<p>好 GK とエースを擁する明野西と 160cm オーバーを 4 人擁する山鹿との決勝は山鹿小が、オフェンス・ディフェンスともにリードし、平成 17 年以来、2 度目の優勝。</p>
	<p align="center">【女子】 優勝:コザクラブ Jr 2位:HC 春吉 Jr. 3位:日岡スポ少 3位:かすやブルーガッツ</p>	<p>全小準優勝のコザクラブが、その地力をいかに発揮し、どの試合も危なげなく勝ち抜き堂々の初優勝。 沖縄県勢としては、大会 4 連覇。</p>
	<p align="center">【男子】 ベスト7賞 【女子】 ベスト7賞</p>	<p>九州大会のベスト7は、上位4チームから選出されるが、どの選手も素晴らしい技術を持つ選手であり、一方、ベスト7に入らずとも、どのチームにも好選手が多く、九州のレベルの高さをあらためて感じた。 また、この激戦の九州から NTS センターへ選出された各選手は、さすがという選手ばかりであるが、他にも呼ばれてもおかしくない選手も複数いて、県とブロックからの選出の難しさを感じた。</p>